

白藍塾オリジナル

2012入試小論文分析&解答のヒント

2012年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・法学部

同じ著者によって書かれた二つの課題文から成る。ともに管理を強める未来国家像を描いている。「未来国家Ⅰ」では、国民の脳に小器具を埋め込み、好ましくない考えを抱いた国民に電気ショックを与える国家が描かれる。ここでは、人ではなく、プログラム・ソフトが国家を支配する。「未来国家Ⅱ」では、遺伝子工学によって犯罪を起こすような人間や自尊心の強すぎる人間が生まれないようにされ、正義の規範を担う遺伝子を促進する国家が示される。

これらの文章を読んで、未来国家Ⅰと未来国家Ⅱに共通する考え方をまとめたうえで、それに対する擁護と批判の両方を展開することが求められている。共通点は、「高度な科学技術によって、国家の価値観に合わない人物を人為的に排除して国家を運営しよう」という考え方だ。もっと簡単に言うと、ハイテクによって全体主義的な管理国家を実現しようという考え方だ。

この共通点について「擁護と批判」の両方が求められているわけだが、もちろん、これまで練習してきた「樋口式四部構成」を応用して書けばよい。第一段落で共通点を取り出し、問題提起する。第二段落で、「これを擁護する視点としては以下のようなものがある」と切り出して、この国家像の好ましい点を示す。第三段落で、「しかし、これには以下のような批判が考えられる」と示す。結論部分は省略する。

擁護点としては、「犯罪がほとんどなくなり、多くの人にとって平和な社会になる」「効率的に国家が運営され、国民の私利私欲によって混乱することがなくなる」「多くの人が平等に生活することができる」などがあげられる。批判点としては、「個人の自由がなくなり、本来の人間的な感情や思想が抑制されて、ロボットのような人間たちの社会になる」「世界

全体が同じ価値観になれば平和になるが、複数の国家が存在すると、国家同士で対立し、むしろ全国民をロボットにしての戦争が始まる」「科学技術にはミスがつきものなので、故障や不備が起こり、考えてもみなかったような混乱が起こる」などを挙げることができる。

なお、二つの文章の共通点として「管理を強める国家像」を示して、その是非を論じる人もいるかと思うが、「ハイテクによって」という要素がないと論が弱まる。合格の可能性がないとは言えないが、高得点は望めないだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>